

1 学校教育目標	
<p>人権尊重の精神を基調とし、主体的に学び、広い視野と深い知識を身に付け、思いやりの心と郷土愛により社会に貢献し、規範意識をもち、心身ともに健康で、たくましく生き抜く、次代を担う生徒の育成を目指す。 教育指針 「学ぶ 鍛える 思いやる」</p>	
2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像	
○学校像	<p>生徒の学ぶ意欲の伸長、学力の向上、社会性の育成を図ることができる学校 地域・保護者に信頼され、力を合わせて生徒を育成する学校 組織で課題解決にあたる学校</p>
○児童・生徒像	<p>向上心をもって粘り強く努力し続ける生徒 他を思いやる豊かな心をもつ生徒 「あじみこし」が身に付いた社会性のある生徒</p>
○教師像	<p>生徒の個性を理解し、よさを伸ばそうと創意・工夫する教師 謙虚に自己研鑽に励み、指導力を発揮する教師 組織の一員として教育活動に取り組む教師</p>
3 学校の現状及び前年度の成果と課題	
<p>1 学校の現状</p> <p>(1) 「地域立中学校」として定着している。</p> <p>(2) 自校作成の家庭学習ノートを活用して、生徒が目標をもって家庭学習に取り組む習慣を身に付けることができた。基礎学力の定着が厳しい生徒には放課後補充教室でAIドリルを活用し、定着に努めている。</p> <p>(3) 学校行事や生徒会活動・委員会活動等には積極的に取り組み、達成感も高い。</p> <p>(4) 地域行事をとおして、地域や関係保育園・こども園・小学校・高校との連携が定着している。</p> <p>2 前年度の成果</p> <p>(1) 新型コロナウイルス感染症予防対策により学習活動が制限されている状況下であったが、各学年の指導内容を終了することができた。また、指導方法を工夫しながら対話的活動を積極的に取り入れた授業を展開した。</p> <p>(2) 小中連携事業による研究と授業改善や児童・生徒の交流活動を概ね行った。</p> <p>(3) 「あじみこし」を意識した穏やかでけじめのある学校生活を送っている。授業や部活動、委員会活動、学校行事等、積極的に取り組む。幼少期より集団が固定化しているため、互いを認め合い、励まし、支え合っている。</p> <p>(4) 前年度は、土曜授業度の地域清掃や私の主張発表会への参加など全てではないが地域に関わることができた。小学校とは部活動体験や漢字検定、合唱コンクールの見学などの連携ができた。中学生消防隊、ハッピーイベントへの参加はできなかった。</p> <p>(5) 運動会は修学旅行を目前に控えていたため、保護者の参観をなしにしたが、学習発表会には保護者の参観を含め実施することができた。</p> <p>3 前年度の課題</p> <p>(1) 授業改善の指導法の一つとしてタブレットを積極的に活用するとともに、評価評定について研究を深める。</p> <p>(2) 小中連携授業研修のみならず、児童生徒の合同行事等の開催により、より密接な関係を構築する。</p> <p>(3) 「あじみこし」を生活指導の基本に据え、礼節をわきまえた礼儀作法等をさらに指導するとともに、競争心や向上心の高揚を図る。</p> <p>(4) 地域や家庭、関係教育機関との円滑な連携により、健全育成をさらに推進する。</p>	

4 重点的な取組事項						
	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R3	R4	R5	R6	R7
1	学力向上アクションプラン	◎	◎	◎	◎	◎
2	小中連携を中心とした地域に根ざした教育活動の実践	◎	◎	◎	◎	◎
3	生徒による主体的な活動の推進・キャリア教育の促進	○	○	○	○	○

5 令和5年度の重点目標

重点的な取組事項－1	学力向上アクションプラン
------------	--------------

A 今年度の成果目標	達成基準 (目標通過率)	実施結果 (通過率結果)	コメント・課題	達成度 ◎○△●
全教科において足立スタンダードに基づいた活用型授業を展開することで、主体的に学び、深く考え、表現することができる。	R5 区学力調査達成率 65% 到達度確認テスト(1月) 正答率 65%	R5 区学力調査達成率 70.3% 到達度確認テスト (1月) 正答率 60.6%	足立スタンダードを基に生徒主体の学習スタイルが定着しつつある。R4 区学力調査達成率 63.2%より今年度は7.1ポイント上昇した。1, 3学年については概ね区平均の達成率であったが、2年の英語が49.1%と課題があり、放課後補充教室と家庭学習ノートで基礎学力の定着を徹底した。	△

B 目標実現に向けた取組み

新・継	アクションプラン	対象教科 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
-----	----------	--------------	-------------	----------------------------	------------	-------------------------------	------	---------	-------------

継続	授業改善	全教科	年間	<p>全教員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導要領改訂に伴う評価評定の理解を深める。 	小中連携合同	全教員授業研究 1回	<ul style="list-style-type: none"> ・管理職に年2回の授業観察 ・小中連携による小学校も含めた全教員の研究授業及び授業観察やICT支援によるICT活用法研修会の実施 ・江北ブロック合同研修会（R5江南中・加賀中が授業を実施） ・教科指導専門員との連携 ・管理職による毎日の授業観察 	<ul style="list-style-type: none"> ・徒の授業に向かう姿勢が良好である事と、教師の授業にかける熱意が相乗効果となり日々の授業が展開されている。その成果が結果に結びついた。 ・授業と評価の関連について、新規採用者や小規模校であるが故の一人教科教員を中心に校内研修を行っていく。 	○
継続	朝読書	全生徒 国語	毎日 朝 10分	<p>国語科及び担任</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎朝10分間読書に取り組ませる。朝学活込みの10分だった読書時間を学活5分と分離し設定した。 	読書冊数	1人10冊以上	<p>4~6/14 年度末</p> <p>R4 9.74</p> <p>R5 5.85</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・時程変更により10分間の朝読書時間を確保し、担任も教卓で読書ができるようになった。語彙力を高めるための簡単な記録を続けている。 ・感染防止対策を解除し、図書室の配置を変更し、1クラス全員が図書室に入り、座れるようにした。 	○

継続	放課後 補充教室	全生徒 小テスト 不合格生徒 英・数中心 に5教科	毎日 放課後 25分	全教員 ・AIドリルを活用 →Qubena カードによる振 り返りの確認 ・定期考査前後は全生徒対象 ・補充対象以外の生徒は同時 刻、教室で学習及び読書						
継続	スモール ステップ テスト	全生徒	年間 単元終了 時	全教科担当 家庭学習とも関連付け 復習プリント等を与えテ ストに取り組みさせる。	到達度確認 テスト(1月)	正答率 65%	到達度テスト (1月) 正答率 60.6%	・今年度より放課後 補習教室の時間 25 分 は全校生徒を対象と し、全教員がついて 実施する形にしたこ とで、清掃や部活動 の開始時刻なども一 斉となり動きがスム ーズになった。放課 後補習教室の内容も 教室を分けて少人数 で行ったり、Qubena を使用したり、変化 を持たせた。今後は 教え合いの形も充実 させ、更なる学力の 定着を図る。 ・スモールステップ テストは教科により 違いがある。見える 形にする。	○	
継続	コンテスト	全生徒	年3回 放課後 25分	全教員 ・国語 7月 英語 12月 数学 2月	コンテスト	合格点 80点とし 合格率 80%以上	合格率 79.9% 国語 86.5% 英語 81.0% 数学 72.1%	・コンテストに向け たプレテストの実施 や練習用プリントの 廊下設置、不合格者 の補充や再テスト、 合格者更に満点の表 彰を行い、学習に対 する充実感を継続し て味あわせる。	△	

継続	家庭学習	全生徒	毎日 強化週間 年4回	家庭学習ノートを自校作成 担任が毎日点検 1, 2年2ページ 3年4ページ 3年については	提出状況 ノートの内容	提出状況 100%	ほぼ毎日、担任が回収し、確認している。テスト前1週間を家庭学習強化週間として重きを置いて取り組ませた。	<ul style="list-style-type: none"> ・年度初めに、家庭学習ノートの使い方や意義を説明し、取り組みを開始した。 ・よいノートの活用法の紹介や活用利点の生徒意見を学校だよりや学年だよりで紹介した。 	○
継続・新規	ICTの活用	全教員 全生徒	年間随時	大型モニター・タブレット 現物投影機等を活用した授業を実施する。 AIドリルの活用 ・数学を中心に	全教科 随時活用	ICT使用率 100%	授業時のICT使用率はほぼ100%	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度より区調査の結果とAIドリルを関連付けするためのQubenaシートを今年度版に更新し復習に取り組んだ。 ・小中連携においてもICTの活用研修や教科ごとに授業でどのように活用すべきか研修を行った。 	○

重点的な取組事項－2		小中連携を中心とした地域に根ざした教育活動の実践			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
小中連携事業とともに、地域行事に積極的に参加し、郷土愛の心を育成する。		小中連携事業をとおして、円滑な接続を図る。 地域行事への参加率を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の授業研究により「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた、系統性ある指導の工夫～ICTを含む教材教具の活用について」を研修した。 ・全部の地域行事に生徒ボランティアを募り、概ね参加できた。 ・開かれた学校づくりと協賛し、地域の祭りで休憩場所として校庭を解放した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1中、1小の連携であるため、つながりやすい環境を生かし交流を深めることができた。 ・地域行事に参加する生徒ボランティアとPTAの活動を関連付ける。 ・祭りの休憩所として校庭を解放したことで、多くの地域の方々と生徒の交流の場を設けることができた。 	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
地域への貢献	「地域の行事に参加している」70%	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動等への参加（消火隊、地域行事、地域清掃、吹奏楽演奏会等） ・土曜授業度ごとにボランティアを募り、生徒会を中心に地域清掃を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・消火隊活動の宮城小学校でのお披露目、2町会・2自治会のお祭りやチャイルドタウンフェスティバル、子どものハッピーイベントにボランティア生徒派遣した。 ・土曜授業度にボランティア生徒を募り、生徒会役員を中心に地域清掃を実施した。 ・地域の行事に参加している：67.8%ほぼ目標値に近いが、地域行事に参加するメンバーが固定化してしまう傾向がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・お祭りの開催時期が続くことで、ボランティアが集まらないイベントもあった。 ・地域清掃の認知度が低く、今後は広報活動に力を注ぐ。 ・地域行事の開催を学校でも広く伝えていく。 	○

<p>交流活動の充実</p>	<p>児童・生徒交流5回以上 新入生2学級確保</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動体験(小6) ・運動会への小学生参加(小6) ・合唱コン練習小学生見学会(小6) ・合同百人一首大会(小5・中1) ・サマースクール アシスタントティーチャー ・中3アシスタントティーチャー(2月) 	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動の第一希望を優先し、開催時期を夏休み中の3日間にし、時間も長くした形で実施した。 ・計画した交流は概ね実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校教員の引率をお願いする形となったが、児童は第一希望の部活動に例年より時間も長く参加することができた。熱中症防止対策のため、校庭の部活動も体育館で体験を行った。 ・新入生2学級想定 	<p>○</p>
<p>授業以外の学力向上 対策</p>	<p>漢検の合同実施 百人一首合同練習会実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各種検定への小学生参加 ・百人一首合同練習会 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字検定を小学生が江南中学校で受験した。 ・2月5日に百人一首合同練習会を開催予定。 	<ul style="list-style-type: none"> ・江南中の家庭学習ノートに近いものを6年生でも使用してもらい、ギャップがなくなるようにしている。 	

重点的な取組事項－3		生徒による主体的な活動の推進・キャリア教育の促進			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
生徒が自分たちで学校を良くしようとする意識（愛校心）と自己肯定感をはぐくむ。キャリア教育に関わる取組をとおして、将来や今の自己の生き方について考え・表現できる生徒を育成する。		「学校に行くのが楽しい」80% 「大人になったときの夢や目標がある」70%	「学校に行くのが楽しい」74.3% 「大人になったときの夢や目標がある」53.9%	・いずれも目標値に達することができなかった。「学校の授業は楽しい」67.8%を上げるところから「学校に行くのが楽しい」を目標値まで引き上げたい。 ・キャリア教育には1学年から系統的に取り組んでいるが、3年の面接練習の中で、「夢はまだ決まっていない」や「できれば〇〇になりたいが」などの発言が多い。夢や理想をはっきりさせる取り組みを検討する。	△
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
自尊感情を育む実践	・「自分にはよいところがある」65% ・「あじみこしを意識して生活している」90% ・各種表彰並びに掲示	・生徒会が主催の「あじみこし」キャンペーンの実施 ・大会等上位入賞者の表彰や掲示	・「自分にはよいところがある」66.4% ・「あじみこしを意識して生活している」76.3% ・ほぼ毎回の朝礼時に何らかの表彰を行い、学校だよりや学年だよりにも取り上げた。	・生徒主体の行事運営や朝礼での表彰など、自己肯定感を高める機会を意識し設けた結果、目標値を超えた。継続する。 ・数値には表れないが。生活の目標「あじみこし」を生徒はかなり意識していて、学校生活は非常に落ち着いている。	○

<p>意志決定能力・キャリアプラン能力の伸長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・職場訪問 1 年、職場体験 2 年の実施 ・夢デザインシートの活用 ・「自分の好きな仕事につけるよう、勉強したい」 85% 	<ul style="list-style-type: none"> ・職場訪問 1 年 ・職場体験 2 年 2 日間 ・夢デザインシート記入 ・外部人材の活用 ・上級生から下級生へ ・中学生から小学生へ 	<ul style="list-style-type: none"> ・2 日間の 2 年の職場体験をコロナ前の形に戻し、実施し、生徒の職業に対する意識が大きく変わった。1 年生の職業講話も外部人材より多種多様な話を聞くことができた。 ・「自分の好きな仕事に就けるよう、勉強したい」 78.3% ・上級生から下級生にキャリア教育の事後学習の発表を通して、取り組みを継承した。また、小学生に向けて中学校行事への招待や部活動体験を通し、少し先の自分をイメージしてもらえた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体験先の確保や講師の手配に苦労はしたが、それ以上に生徒の満足度は事後の表情からも察することができた。 ・好きな仕事をはっきりさせるところからテコ入れが必要である。 ・与える喜びを実感させることができ、下級生については目上の者を尊敬する意識を培わせた。 	
<p>コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力の伸長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「グループ活動やペア活動で話し合ったり、発表したりすることは好きだ」 60% 	<ul style="list-style-type: none"> ・全教科で言語活動を取り入れた工夫した授業の実施 ・プレゼンテーションソフトを活用した発表の充実 ・生徒会朝礼の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・「グループ活動やペア活動で、話し合ったり、発表したりすることは好きだ」 74.3% 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で話し合いや発表の機会を多く取り入れた。また、総合的な学習では学んだ事柄を学年全体の場や学習発表会で、ICT を活用しプレゼンテーションを行った。 ・創立 70 周年記念式典で学年ごとの発表や全校合唱にも取り組み、地域の方々より称賛の言葉を多数いただいた。 	
<p>生徒会、委員会活動の活性化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「行事・部活動に積極的に取り組んだ」 85% 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒実行委員会を中心とした行事の運営や生徒会、委員会の主体的な活動の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・「行事・部活動に積極的に取り組んだ」 86.8% 	<ul style="list-style-type: none"> ・3 年生を中心とした行事の実行委員が、リーダーシップを発揮して生徒主体の運動会・学習発表会を運営することができたが、目標値を超えた超えた。 	

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

江南中学校の生徒が地域の将来を真剣に考え、その考えを的確に表現し、実現に向けて直ぐにでも動き出しそうな決意を創立 70 周年記念式典において多くの関係者の皆さんに見ていただけたことが令和 5 年度の一歩の成果となった。

学力向上においては、授業改善はもとより、時程の変更により朝読書の時間が確保され、落ち着いた学校生活の始まり、全校体制での放課後補充教室の実施により家庭学習ノートの継続も相まって基礎学力の定着につながったと考えられる。依然としてスマートフォンの使用時間は 5 時間を超える生徒が多く、自らの行動を制御できる考え方や手段を学活等で提示しつつ、学びの楽しさを伝えられる授業改善を目指す。家庭学習ノートについては、発展的なものの見方や考え方ができる基礎となる、記憶しなければならない知識を覚えるためのノートとして活用していく。放課後補充教室については、学び合いの時間を増やし、人に教えることで更なる学力の定着を強固なものとする。学び合いのルールについても校内で統一し、全学年のものとする。

苦手なものを避けることで大きな成長の機会を逃してしまっている生徒も少なくない。教員間でキャリア教育の目的意識を明確にし、生徒一人ひとりの夢や理想をはっきりさせる手助けを行い、夢や理想につながる目標をもって学習に取り組ませる。苦手でも目標のためにやりきる学習が楽しく、充実感や達成感を得られることを体験させる。ストレスからの退避やメンタルトレーニングの方法について、スクールカウンセラーや養護教諭とともに指導していく。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

日頃より本校の教育活動にご理解ご支援ご協力を賜り感謝申し上げます。

宮城・小台地域は、小さな乳幼児からご年輩のみなさままで、ひとつの絆でつながっている素晴らしいところです。その貴重な財産である中学生の健全育成と学力向上のために、教職員の総力をあげて尽力してまいりますので、今後ともなお一層のご理解ご支援ご協力をお願いいたします。

江南中学校創立 70 周年事業全般においてご支援、ご協力をいただきまして誠にありがとうございます。

(3) その他（学校教育活動全般について）

今年度は 1 学級増加し、1 年 2 学級・2 年 2 学級・3 年 2 学級の全校 6 学級で編成されました。

次年度以降も、小規模校ならではの長所を最大限生かし、複数担任制・指導方法の工夫等、生徒一人一人にきめ細やかな指導並びに支援ができるよう教育活動にあたってまいりますので、ご理解ご支援ご協力をお願いいたします。